

【小田原市長選挙公開討論会】

こちらの資料は2024年4月10日（水）に開催いたしました
公開討論会の内容を文字おこしたのになります。

■井野副委員長

これより、公益社団法人小田原青年会議所4月例会小田原市長選挙公開討論会を開会いたします。私は本日の司会を務めさせていただきます、公益社団法人小田原青年会議所地域の魅力発信委員会副委員長井野伸洋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、主催者を代表いたしまして、公益社団法人小田原青年会議所理事長、松賀夏樹よりご挨拶させていただきます。

■松賀理事長

ただいまご紹介にあずかりました、私は、公益社団法人小田原青年会議所今年度理事長職を務めております、松賀夏樹と申します。よろしくお願いいたします。

まず初めに、本日の公開討論会の開催に当たり、立候補予定者のお二方におかれましては、快くお引き受けいただきましたことに感謝、御礼を申し上げます。そして、本日は平日の夕食時という大変お忙しい中、この公開討論会の会場に多くの皆様にご来場いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

また、会場の席数の関係や理由があつて会場に来ることができなかつた方々に対しまして、オンラインでの視聴ができる設定をしております。現在、ライブ配信をご視聴いただいている皆様におかれまして、重ねて感謝御礼を申し上げます。

私ども小田原青年会議所は、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の1市3町を活動エリアとし、明るい豊かな社会の実現を目指し、20歳から40歳までの青年が活動している団体です。そのまちづくり活動の一環として、住み暮らす地域をより良くするために、5月19日に控えた小田原市長選挙に向け、地域のリーダーを、未来に向けたリーダーを皆様方お一人お一人の考えで決める、その一助となるべく、この公開討論会を開催させていただきました。公開討論会は、まちの未来、まちの課題について共通するテーマを立候補予定者の方々よりその考えであり、想いを発信し、見聞きする場です。立候補予定者を、それぞれの想いを我々が受け取り、未来について考えることができればと思います。この公開討論会につきましては、ライブ配信だけではなく、後日アーカイブ配信も予定をしております。

諸事情があり会場に来ることができなかつた方、ライブ配信を視聴することができなかつた方におかれまして、ぜひともアーカイブ配信をご視聴の上、一人でも多くの小田原市民の方々にこの公開討論会をご視聴いただければと思っております。

本日、会場にお越しの皆様におかれましては、そしてライブ配信をご視聴の皆様におかれましては、ぜひとも本日の内容を身の回りの方々へ発信いただければと思います。結びとなりますが、自らの意思で決定し、未来を誰に託すのか、そのきっかけとなり、素晴らしい選挙

になることをご祈念いたしまして、主催者としての挨拶とさせていただきます。
本日は限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

■井野副委員長

これより、公開討論会を始めるに先立ちまして、テーブルにも貼らせていただいております注意事項について、改めてご確認をお願いいたします。公開討論会中は、そちらの注意事項を守っていただくよう、よろしくお願いいたします。それでは、本日のコーディネーターをご紹介します。一般社団法人公開討論会支援リンカーンフォーラム監事 S 級公認コーディネーターの植松一成さんです。
植松さんどうぞよろしくお願いいたします。

■植松コーディネーター

どうぞよろしくお願いいたします。

■井野副委員長

それでは、本日、大変お忙しい中、この討論会にご出席いただきました立候補予定者の皆様にご入場いただきます。大きな拍手でお出迎えください。
それでは、立候補予定者の方をご紹介します。舞台向かって左から加藤憲一さん、守屋輝彦さんです。

■植松コーディネーター

皆様大きな拍手をお願いいたします。
立候補予定者のお二人はご着席ください。

■植松コーディネーター

はい、それでは早速ですけれども、進行に移らせていただきます。改めて本日ですけれども、お二人に出席していただきました公開討論会というのは、お二人以上の出席がないと成立しないということになっております。本当にお二人には心より御礼申し上げます。
また、本日ご来場の皆様、心より御礼申し上げます。早くからお越しただいて、会場に入らなかった方もいらっしゃるかと伺っております。また、動画配信でご覧の皆様、ぜひ今日のお二人の政策を聞いて、未来の選択に結びつけていただければと存じます。
先ほど司会の方からもありましたけれども、本日の公開討論会ですけれども、写真の撮影はOK とさせていただきます。ただし、動画の撮影と音声の録音に関していくと、お二人の言葉が切り取られることもありますので、そちらの方はちょっと慎んでいただきたいと思います。
もしご覧になっていただく場合は、動画配信でご覧になっていただければというふうに存

じます。また、本会場ですけれども、原則着席しておいていただきたいですけれども、報道関係の皆様、撮影の関係でちょっと移動することもございますので、ご参集の皆様はぜひご理解していただきたいと思います。

はい、すみません。私があまり話しているとご迷惑になってしまうので、早速始めさせていただきますと思います。

本日は自己紹介をしていただいて、次に小田原青年会議所が3つのテーマを設定されました。定住促進について、高齢者福祉介護対策について、地域経済についてということです。3つのテーマ、そして市民の皆様から小田原青年会議所が市長になれる方に伺いたいということで、アンケートをとらせていただいて、そちらの方を3つピックアップさせていただいて、お二人に伺いたいと思います。本日の発言順ですけれども、開催の前にお二人にくじを引いていただいて、順番を決めさせていただきました。

不公平にならないように、そのテーマごとに交互に順番を変えさせていただきます。また、本日は統一で3分間ずつお話しいただくということで、統一のルールです。どちらかという公開討論会というより政策提言会というふうに感じていただければと存じますので、よろしくをお願いします。

それでは、早速始めさせていただきますと思います。まず最初に自己紹介と小田原の好きなところをお話しいただきたいと思います。順番は守屋さん、加藤さんの順番でお話しいただきたいと思います。それでは、守屋さんからお願いいたします。

■守屋立候補予定者

はい、皆さん、こんばんは。改めまして守屋輝彦でございます。まずは小田原青年会議所の皆様にごこのような機会を設けていただいたことを心から御礼を申し上げます。また、ご来場いただいた皆様もありがとうございます。自己紹介というところでございます。私は、1966年、昭和41年に小田原で生まれ地元の学校を経て、大学の建築学科の方に進みました。そして、在学中に都市計画というものに出会って、これは面白いという想いでこれを自分の仕事にしようという想いで、1992年に神奈川県庁に建築の専門職として採用され、その後18年と半年県庁職員として、公務員として働き、そしてその後神奈川県議会議員を2期8年させていただき、そして2020年の5月に小田原市長に就任をさせていただき、現在に至っているところでございます。

先ほど、建築まちづくり都市計画のお話をしましたけれども、私はこの間、さまざまな都市を見たりする、また研究をするという機会があってですね、いろいろな都市を見て、改めてこの小田原というのを見ると、これが本当にすばらしいまちだなと、皆様もいろいろな切り口があるというふうに思いますが、歴史、文化、自然環境、交通利便性、あらゆるものをとっても、これは日本を代表する世界を代表するまちであるというふうな想いになりました。そして、「世界が憧れるまち小田原」というものが、自分の都市づくりのイメージとして思い浮かび、そのことを今は小田原市の第6次総合計画2030ロードマップ1.0の将来都市像

にこれを掲げたところでございます。先ほど自己紹介に加えて、小田原の好きなところみたいな話もあったのですが、私は長らく荻窪というところに生まれ育ちました。

駅からはすごく至近の距離であります、小田原に行くことをまちに遊びに行く子どもの頃の話をしていたんですね。やはり何かこのまちに対する憧れ、晴れの舞台があったんだというふうに思います。そして、その晴れの舞台というのは、実は駅ばかりではなくて、小田原地域にたくさんあるんだらうという風に思っています。

私が市長に就任したのは第23代小田原市長という紹介を受けておりますが、小田原が昭和15年に誕生して、実は今、私で9人目の市長をさせていただいております。歴代の市長さんたち、8人の市長さんたちがつくってくださった小田原の魅力を高めていくために、日々緊張感を持って仕事をさせていただいているところでございます。

今日はどうぞよろしく願いいたします。

■植松コーディネーター

皆さん、大きな拍手をお願いいたします。

はい、ありがとうございます。最初ですからと思って皆さんに促そうとしたら、皆さん先にしていただきましてありがとうございます。続いて加藤さん、お願いいたします。

■加藤立候補予定者

皆様、こんばんは。加藤憲一でございます。今日はJCの皆様方、こうした場の設営をありがとうございます。まず自己紹介ですね。私は守屋輝彦さんの2級先輩になるんですけども、1964年の5月生まれです。

ちょうど今回の選挙の告示が5月12日なんです、その前の日が還暦の誕生日になりました、今回は60歳にして市長選挙に出ると、そういう形になりますね。小田原愛児園、芦子小学校、城山中学校、小田原高校、そして一浪して京都大学法学部ということで卒業しております。

その後は4年間と、あと社会人の最初の2年間以外は、基本的に小田原で生まれて育った人間でございます。職種はいろいろな仕事を渡り歩いてきたという面がありますね。最初は大学を出た後は経営戦略のコンサルティング会社にいまして、これは大手の企業さんの経営陣に対するコンサルをやり、その後小田原に戻ってきてまして、子どもたちの健やかな暮らしのあり方を考えるNPOの事務局を務めていました。

その後、子どもの病気が絡んだりする中で、農業もやり、漁業もやり、また林業関係もあり、また街中のオービックビルの事務局長ということで商業にも絡んできました。このまちづくりの分野に関心を持つようになったのは、阪神淡路大震災で延べ20日間ほど現地でボランティア活動をしたということが大きな経験になっています。

そこから小田原市の当時ありました政策総合研究所の研究員になりまして、この小田原の持っている様々な地域資源の研究をさせていただいた、それが具体的に市政によりぐっと

関心を深めるきっかけになりました。39歳の時に初めて市長選挙に立候補し、当時は小澤前市長と一騎打ちをやって惜敗をしましたがけれども、4年間の浪人生活を経て、2008年の5月に市長に就任をさせていただきました。

当時44歳でしたね。その後3期12年を経て、2020年5月に守屋さんと一騎打ちをやって退任をしたということになります。私の小田原の好きなおところではありますが、これも結構重複するんですけども、やはり小田原は狭いエリアにいろいろな表情を見せてくれる、ちょっと動くとまちから山に行ったり、山に行くと柑橘園があったり、また少し展開をすると海がぱっと見えたり。まちを抜けると田んぼや畑があったり、古いまち並みがあったりということで、本当に狭いエリアに人が生きていくために必要なものを全て持っている、そういう素晴らしい都市だというふうに思います。小田原は可能性の大地というふうに私はずっと言ってきましたが、まさにそれがだんだんだんだん様々な取り組みを経て充実をしてきているという実感を持っています。

この小田原が持っている可能性を広げていきたい、そんな思いで、今回もこれからの挑戦に取り組んでまいりたいと思っています。今日はどうぞよろしくお申し上げます。

■植松コーディネーター

皆様大きな拍手をお願いいたします。

はい、ありがとうございます。ここからは私が促した時以外は拍手は慎んでいただきたいと思います。応援したい気持ちは分かるんですけども、一応公平性を期待したいということで、よろしくお申し上げます。それでは、テーマを3つということで、これは小田原青年会議所が設定したテーマでございます。

まず最初にテーマ1ということで、定住促進についてということです。現在、小田原市の人口は年々減少しておりますと、現在、私が調べたら3月1日現在18万6076人という方が小田原市に住まれている、登録されているということですね。特に子どもを生み育てる割合の多い20代、30代の世代が、ちょっと市外への流出傾向が見られるということが言われております。

第2期小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、4つの基本の目標を掲げております。それは、安定した雇用を創出する。2つ目、魅力を発信し、人の流れを創る。3つ目、子どもを産み育てやすい環境を創る。4つ目、活気にあふれ、住み続けたいまちを創る、そしてこれを支える人を育てて活かすという4つのことになります。

これらの4つのうち一つを選んでいただき、小田原市長というお立場でどのようにアプローチしていくのか、お話を伺いたいと思います。順番は加藤さん、守屋さんの順番でお話しいただきたいと思います。それでは、加藤さん、お願いいたします。

■加藤立候補予定者

とても大事なテーマです。これについて私は4つ目に挙げられました活力にあふれ、住み続

けたくなるまちをつくる、それを支える人を育て活かすというテーマが最も重要であり、入り口であるという風に思っています。

皆さんもご承知のとおり、日本の人口が減っていくということは、これはもう避けがたい現実でありまして、この時代の中で地域の運営をつかさどるリーダーとして考えていくべきことは、人口が減っていくということを前提に、あるいは人口が減っていくことを想定しながら、それでもやっていける地域をつくっていくということが極めて重要だと私は思っております。

しかしながら、もちろん人口減少が不可避だとしても、ここを選んでくれる人が増えるにこしたことはありませんので、当然そういった施策は考えていくわけですね。その上で、やはりこの魅力的なまちをつくっていく、そこに人が集まっていくという流れをつくっていくことが極めて重要だと思います。

従来の定住促進のフローというのは、まず雇用を発生させる企業がやってくる、あるいは企業が定着する、そこに雇用が発生して、そこに人が集まる。人が集まることによってまちがにぎやかになって、そこで魅力を生み出して、そこにまた人が集まってくる。この企業が立地をすることによって、経済が、人が定住し、経済が回っていくという、そういうサイクルだと思います。

ただ、これから先は、なかなか大手の企業が日本の国内に拠点を持っていくということが非常に難しい。今、日本中で競争になっていますので、それをこの小田原に持ってくるということは、なかなか現実問題として難しい問題があります。しかし、小田原には他には決して負けない、非常に多くの魅力的な素材をたくさん持っています。

これを生かして魅力的なまちを作り、そこに優秀な人材、またこのまちで暮らしたいという人が集まっている。そこに人が集い、そこに文化が生まれてくる。そこで知識的な知的な刺激がたくさん生まれて、文化が育っていく。そういった魅力的なまちができることによって、そこに今度は企業がやってくる。

今、ですから、にぎわい、町のにぎわいをつくることに企業がついてくる、そういう時代になってまいります。そういうことを考えると、魅力のある人が集うまちの要件をちゃんと整えることが大事だと思います。

1つには、豊かな自然環境があって、食が豊かで、人が健やかに過ごせる町であるということ。2つ目には、多彩な人々が元気に暮らしていて、その町の活力を生み出しているということ。3つ目には、日々過ごす地域コミュニティの中で、そこで特に子育てをするような人たちが支えられ、生かし合って生きていくような、そういった温かいまちがあるということ。で、古くからのものを大事にしながら、なおかつ新しいものにも寛容で、それを受け入れていく、そういった町があること。こういったまちをつくっていくということは、まさに小田原が今持っているものを活かすことによって出来るんですよね。

ですから、これをしっかりやり切っていくことによって、魅力的なまちを育てていく。そしてそこに魅力を感じて企業がやってくる、そういうサイクルをつくっていくということが

とても重要だという風に私は思っています。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございます。それでは、続いて守屋さん、お願いいたします。

■守屋立候補予定者

定住人口の促進について、私は非常に大切なテーマだと思っています。今ここに出たお話のように、今 18 万 6000 人になりました。かつては 20 万人を超えていたまちが人口減少しているのですが、このままどんどん人口が減少すると、社会のさまざまなサービスが低下を余儀なくされます。

例えば、もう既に始まっている人口減少によってバスに乗る方がいなくなっている。そしてバス便が減ってさらに住みづらくなってきてしまう。また、今現在小田原市立病院を建設中ですが、実は地域全体の病院のベッド数というのは、その地域の将来の人口によってこれが決められてくる、勝手に増やせない。そうすると、高度救急の提供ができなくなる。そうすると住みづらいまちになってしまう。そういった負の循環が起きるという状況の中では、定住人口を増やしていくということは大きな目標です。その中において人口は自然増と社会増があるわけですが、自然増、出生率の回復がなかなか難しい中においては、私はまずは社会増に取り組むべきだというふうに考えております。

さまざまな移住のプロモーションを行ってまいりました。地域によっては、移住してきたと言われた方に、これだけの金銭的なメリットがありますよ、そういうふうにして移住者を呼び込むところもありますが、小田原市では直接的な金銭的メリットというよりも、小田原の暮らしそのものをアピールする、そして移住者が小田原に暮らしてよかったことなどを動画やインタビューなどを通じて行って、移住のプロモーションを行ってきました。そして、その結果として、この 4 年間で約 2000 人の社会増ができたということは、小田原のポテンシャルの力を大きく発揮できたのではないのかなというふうに思います。加えて、そうになると、やはり暮らすところに関して、仕事をする、雇用の問題があります。一時、この小田原からどんどん大きな企業が流出した時期がありました。出ていったものはしょうがないとすればですね。まずは今いる企業の方たちに再投資をしていただきたい。それを後押しする制度をつくることによって、今、企業の再投資も活性化してきました。

また、空き地になったところには企業誘致、これも着実に成果を上げてきております。これは約 260 億円の投資額が決まっているところがございます。そして、スタートアップ支援も大変大切な取り組みです。小田原に来て、さまざまな人と会うことによって、新しいビジネスチャンスを生み出していくという方が最近増えてきています。

さまざまな企業誘致策、もしくは起業、これを後押しすることによって雇用を生み出している。そういった方たちが、この先輩の移住者と組み合わせることによって、さらに発信を強めていく、いい好循環ができています。そのことが先ほどお話した社会増につながっている

と思います。これを引き続き牽引していきたいと考えております。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございます。それでは、テーマ2のことを伺いたいと思います。高齢者福祉介護対策についてということです。ちょっと先ほどから小田原市が人口減少しているよという話がありますけれども、一方で、高齢者の人口は今後も増加していくことが見込まれます。このまま増加すると、令和7年度、来年度には75歳以上の後期高齢者が3万4756人に達するという見通しが出ているそうです。このような状況下において、小田原市として高齢者福祉介護対策は当然喫緊の課題であるというふうに存じます。小田原市長というお立場で、小田原市の今後の高齢者福祉介護対策をどのようにすべきなのか、お話を伺いたいと思います。

順番は、守屋さん、加藤さんの順番でお話しいたきたいと思います。それでは、守屋さんをお願いいたします。

■守屋立候補予定者

高齢者福祉介護対策でございます。まず冒頭に、高齢化は進んでおります。長寿社会になってきています。これが社会にとってマイナスであるということを払拭しなければならないと思います。

長寿社会がすばらしい社会になっている。元気で活力ある高齢者が生き活きと暮らせるまち、これを作っていく。そのためには、まずは健康づくり、そして介護予防というものに取り組む必要があります。そのためには、介護予防教室であるとか、健康づくり事業をこれは地域に根差して行っていく必要があるというふうに思います。

一方で、認知症対策ということも必要になってきます。2025年には700万人、高齢者の5人に1人が認知症になると言われている時代において、社会全体で認知症への理解を深めていく。そして必ず身の回りに認知症の方がいるんだとしたら、そういう方に接したときにはどういうことをするべきかということを目ごろから考えておく。そのために認知症のサポーターを養成し、私もこの間現場に赴きましたが、認知症カフェ、気軽にそんなことを話せるような環境が必要だというふうに思っています。

そして、エイジフレンドリーシティという言葉をご存知でしょうか。昨年からは始めた豊川地域で高齢者にとっても住みやすいまちづくり、まさに歩いて楽しくなるまち、そのエリアの中で生活が繁栄するまち、そんな研究も始めたところでございます。そして、高齢者が外に出ることによって、これは精神的にも肉体的にも健康になっていく。一方で、バス便が減って外に出づらい、こういう環境の中においては、高齢者の移動支援ということは私は喫緊の課題だというふうに思っております。

本市においては、今年の11月におだタク・おだチケ事業というものをスタートいたしました。そして、この4月からさらにその対象エリアと年齢を拡大しているところでございますが、これからもあらゆる手だてを講じて移動支援をしていく、さらに加えて言えば、やは

り施設整備も必要になってまいります。これまでも介護医療院、認知症グループホーム、看護小規模多機能居宅介護施設等々を整備してまいりました。これらの現場に行くと、いくらそういう施設を整備したとしても、介護人材がどうやって確保できるかということは、多くの施設に共通する悩みでございました。

せっかく育成をした介護士さん、他のところに行ってしまうというような施設長さんのお言葉もいただきました。こういった人材確保を進めていく、さらにはいろんな制度があるのですけれども、私も直接お話をお伺いすると、どうしても制度のはざままでその制度を利用できないで一人悩み苦しんでいる方たちがいらっしゃるということがあります。

そういったことも含めて、やはりそれは高齢者支援の相談体制を充実していく、専門スタッフの育成なども大きなテーマになると思っております。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございます。それでは、続いて加藤さん、お願いいたします。

■加藤立候補予定者

このテーマは本当に避けて通れない、日本のこれからの最大のテーマの一つだというふうに思っています。

まず、高齢者ご本人に関する取り組みについて二つお話をしたいと思います。

一つは、まず高齢者の世代が社会的なコストを増やしていくような存在にならないということ、このことをしっかり後押しをしていかなければいけないと思います。言うまでもなく、医療や介護の利用が増えてしまえば、当然、国保財政、介護保険財政を圧迫していくこととなります。これは地域の経営に非常に大きな影響を与えていきますので、とにかく元気に加齢をして、介護や医療のお世話にならないで、できるだけ歳を重ねていただく方のための健康づくりのバックアップ、これは極めて重要です。

もう一つ、社会的コストを減らす存在にもなっていただきたいということですね。これからの社会の中で一番大きな存在になる高齢者の方たちは、単に歳をとっている、昔の言葉でいうと老人ではなくて、元気に地域のことを支えていく存在になっていく、そういう立場だと思います。したがって、仕事をやめられた後も、地域の中で地域の活動、市民活動等に参加をされて、地域の課題解決を担っていく、地域の後継者を育てていく、そういう活動をしていただくことによって、社会的なコストを減らす存在になっていただける、そういうふうに思っています。

あともう一点は、介護が必要になった方たちへの対応ということです。まず1点は、介護事業者の問題。これは守屋さんも指摘されましたけれども、とにかく人材が集まらないということに尽きます。これをどうやって支えていくのか。これは非常勤の方を雇ったり、いろいろな形で人を集めていますけれども足らなくて、やはり外国人の方に来てもらわないと間に合わないというところが非常に多くなっている。この介護人材の不足感をどうやって国

の制度の分からないところを地方自治体が補うのかというのはとても大事な観点ですね。あともう一つ、地域社会、介護が必要な介護保険法の適用になる前だけでも、だんだん暮らしが不自由になっている方がたくさんいらっしゃいます。こういった形を支えていく地域の仕組みづくりが極めて重要です。私の時代にケアタウン構想というのをやりましたが、地域で民生委員さん、自治会さん、老人会さん、社協さん、いろいろな方たちがお互い様の気持ちで地域の支え合っていく体制を作ってきました。この体制をさらに強化していくということ。ただ、これを支えていく方の人材の側も、高齢化して担い手が減っていく中で、どうやってこの地域の仕組みを守るかということも大きなテーマになっています。したがって、地域の高齢化を支える人材をまた育てていく、あるいは発掘していくということも欠かせないテーマであります。

あと、最後は行政です。行政の中で、福祉健康分野、特に高齢分野を支える取り組みというのは、ボリューム的にも一番大きく、多くの経験豊富な人材を要するところです。ここの人材のノウハウやスキルをちゃんと育てていく、そして地域の中で信頼をされる職員として民間の事業者や地域の方たちとしっかり繋がっていく。こういうことを大事にしていくことはとても大事です。したがって、市役所の中で福祉健康部、高齢部門の職員の育成はとても重要なテーマだと思っており、しっかり取り組んでいく必要があると思っています。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございました。では、このテーマを終了させていただきます。

続きまして、テーマ3という形になります。

地域経済についてということにお話をいただきたいと思います。多分これは青年会議所というのはまちづくり団体とあって、若い人たちが集まって、どのようにしてこの地域をよくしていくかという活動をしております。多分そのことがあって、このテーマを選んだんですよ。

■公益社団法人小田原青年会議所松賀理事長

そうですね、はい。

■植松コーディネーター

ということで、すみません。余談になりましたけれども、とりあえずこのテーマを選んでいただいて、そして実際に小田原市民の方々が、小田原市民の一人ひとりが小田原市においてより良い暮らしが実現、実感するためには、地域経済の活性化が重要になるということで、このテーマを抽出したんだと思います。

小田原市においては、地域経済振興戦略ビジョンを定めているそうです。同ビジョンにおいて、基本方針として、地域資源を最大限に生かした需要の喚起と地域内循環による経済の活

性化を2つ掲げているそうです。その上で、地域経済振興戦略ビジョンにおいては、地域経済の課題として消費拡大に向けた対応、企業誘致や企業立地のさらなる推進、イノベーション創出を促進するための場づくりを掲げているそうです。

こうした課題を踏まえて、小田原市長というお立場で、小田原市の今後の地域経済政策に対してどのようにすべきかということをお話伺いたいと思います。

順番は、加藤さん、守屋さんの順番でお話しいただきたいと思います。それでは、加藤さん、お願いいたします。

■加藤立候補予定者

言うまでもなく、地域の血液であり、生命線が地域の経済であります。

私が今回、政策資料集を自分でこしらえまして、その中で200項目ぐらいあるのですけれども、地域経済の分野に40から50ぐらい一番項目を割いている部分ですね。ですから、各論言い始めると、全然3分で収まらないので、構造的な話だけ今日はさせていただきます。

まず、今御指摘があったように、地域経済振興戦略ビジョンは、私の時代に第一発目を作らせてもらって、おそらく守屋さんが継承されたんだと思いますけれども、その中でも進めたのが地域が持っている資源を生かし切って、それを需要に繋げていくということがやはり論点でした。今回、これから先の地域経済の立て直し、あるいは強化に向かってやっていく上で、短期、中期、長期、そして基本のベースとなるこの4つを触れたいと思います。

短期的にできる地域経済の振興については、何といても観光です。観光、最近の観光のトレンドは、皆さん御承知のとおり、まち歩き観光、そしてインバウンド、産業観光、この地域が持っている資源に着眼して、それをつないでいく観光ですよ。これをおかげさまで大分、小田原でも進んできました。最近、観光客数が当時500万人だったのが、一回コロナで落ちましたけれども、まだ跳ね上がっています。これはミナカが出来て180万人、TOTOCOが出来て50万人、こういった既存の施設が出来て動いていることによって跳ね上がった結果になっていますけれども、そういった観光客を受けとめていく施設というのは大分整ってきました。空間もできてきました。問題は、これをさらに磨きをかけていくということです。これによって、短期的な地域の経済の振興というのは十分にできる。まだまだ相当伸び代があります。これをやっていくということ。これが1点目。

2点目は、何といても中長期につながっていくためには、構造的な経済の仕組みを整えなければなりません。これは産業を作るということに他なりません。小田原の地域経済と連関する、いわゆるRESASを見ていくと、二次産業、三次産業の部分で付加価値をとっていますが、例えば一次産業はほとんどないんですね。強みを伸ばすという観点もありますけれども、弱いところを伸ばしていくという観点においては、小田原が持っている農林水産業、ものづくり、こういったものをしっかり育てていって、産業の形に仕立てていくということはとても重要です。これも伸び代が十分にあって、やれることがたくさんあります。

3点目、これは長期で経済と直接関係ないと思われるかもしれませんが、やはり最大の問題

は人材をつくるということです。これから人口減少の時代になって、企業の最大のネックは、人がなかなか得られなくなって、しかも優秀な人材を得ることができなくなるということが課題ですが、これを小田原ではちゃんとした人間が育っていく、人材が育つ企業を支えて、地域の課題を分かって、地域の可能性を伸ばしていけるような人材を作っていくまちなになる。これは極めて重要だと思います。

あと1点、環境ですね。RE100あるいはSDGsの時代に、環境にセンスのある企業が選んでくれるような環境の魅力を発信していく、そのことによって選ばれるまちなになっていくというふうに思います。

ひとまず以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございます。それでは、続いて守屋さん、お願いいたします。

■守屋立候補予定者

地域経済についてということで、地域経済の好循環、これはロードマップの柱の一つにもなっております。小田原にはあらゆる産業がそろっている。それは歴史が証明しているところですが、これは今、加藤さんのお話もありました観光需要、これは非常に大きなものになっています。令和4年度は入込み客数が726万人、そして観光消費額が267億円と、ともに過去最高を記録いたしました。これを伸ばしていけば、目標である2030年の1,000万人、そして484億円が見えてくると思いますが、実はここには客単価の差があります。現在は3,677円、目標額は4,840円ですので、その客単価を上げていく。

地域経済を回していくためにも、私は食にフォーカスした取り組みが必要だと考え、美食のまちづくりを進めているところでございます。また、1つ目の質問でもございました企業誘致とも関係するんですが、これはさまざまなスタイルで誘致を行っておりまして、既に新規で5社、そして拡大で3社が決まっているところでございます。

また、サテライトオフィスなども興味を示してくださる方がたくさんいらっしゃるので、さまざまな誘致制度を設けた結果、令和4年、5年の実績だけでもオフィス賃料の補助が18件、そしてリノベーション補助が15件、コワーキングの補助が3件という形で、いろんなビジネスが生まれているところでございます。こういったイノベーションを起こしていくための拠点として、神奈川県と連携してワークプレイスマーケット、ARUYO小田原というものを開設いたしました。

ここは、これまでに利用者が累計で5000人を超えていただいております、ビジネスの相談が189件、そしてマッチングが22件、いろいろなイベントをやった累計の参加者は2000人を超える状況にあって、ここに新たな人のつながりが生まれて、新しいビジネスが生まれる。そんな効果を期待しているところでございます。また、外に向かって打って出るということも大変大切なものだというふうに考えております。そこで、一昨年からは始めておりまし

た海外マーケティング事業、まだ昨年一回、アメリカの方に地元の企業さんが訪問したところでございますが、こういった外に打っていく、新しい市場を開拓していく、そしてそれを行政が支援していくという取り組みは必要だというふうにも考えているところでございます。

この小田原においてさまざまな伝統産業があり、そして長い企業経営に長けていた経営者がいる。そこに若い人たちがまた新たな方法を組み合わせしていく。これがほかにはない、小田原で創業する強み、もしくは伝統産業が新たな革新をつくっていく取り組みにつながっていくというふうに思います。

その結果として、この地域経済を好循環させていくという取り組みが、先ほどお話ししたような地域の活力につながっていくというふうに考えております。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございました。非常にお二人とも行政経験が豊富な方がお話いただいているので、実際に行われていた、そしてこれからやろうということも非常にわかりやすく説明していただいたのだというふうに私も聞いていて思いました。

ということで、小田原青年会議所が設定したテーマ、3つのテーマを終了させていただきます。皆様お二人に大きな拍手をお願いいたします。

はい、ありがとうございます。ちょっとですね。次に、市民の皆様から集めた質問についてお伺いする前にですね、ご来場の皆様、そして動画配信をご覧の皆様。ところで、小田原市の令和6年度の一般会計当初予算全体予算額というのをご存知でしょうか？ちょっと私が調べさせていただいたら、令和6年度の一般会計当初予算は765億円という形になっています。

そして、特別会計、企業会計も含めた全体会計というんですけれども、全体会計の予算総額は1,977億円ということです。過去最高ということなんですけれども。単純に過去最高といっても、大体これも伸びていく可能性もありますので、単純に1,977億円に単純に4をかけるとどのぐらいの数字になるかということだと、約8,000億なんですよね。

実際のものは一般会計当初予算になりますから、765億に4掛けると3,060億円という形になります。

市長を選ぶということは、その3,060億とか8,000億とか、そのお金を託すという形になってきます。ぜひ4年の任期ですからね。そのことを踏まえて、皆さんもいろいろ市政に対して関心を持っていただければというふうに存じます。

それでは、市民の皆様からいただいた質問をお二人に投げていきたいと思っております。

まず最初に、今年の1月1日、能登半島で大変大きな地震がございました。小田原にも相模トラフがあったりとか、ちょっと離れますけど、東南海地震も直接的に関係があるというふうに思います。

小田原周辺でもいつ大規模地震や大規模災害が起きるかもしれません。その起きたときの

具体的な対策や防災減災の取り組みについてのお考えをお伺いしたいと思います。順番は守屋さん、加藤さんの順でお話を伺いたいと思います。それでは、守屋さんからお願いいたします。

■守屋立候補予定者

防災減災についてのご質問でございます。能登半島地震があつて、本当に関心の高い分野だと思います。先ほど私の自己紹介のところで、県庁職員時代のことをお話ししました。阪神淡路大震災が発生した時に、私は数日後に被災地に入りまして、いろいろ本当に混乱の中でどういうことが行われているのか、食料の調達などを現場の生の声を聞いてきました。

それを今、東日本、熊本も現場に行ってきたわけなんですけれども、やはり被害を軽減していくという取り組みが必要だというふうに思います。風水害を例にとれば、今、非常に早い段階でこれは予報が出ています。その情報をしっかりと市民の皆様にお伝えをする、そして自助、共助でできる部分の対応していくということ。

そのためにはしっかりと水位計の設置であるとか、センサーの設置であるとか、それをこれまでやってきました。そして、その情報を小田原防災ナビというツールで市民の皆様にお伝えをしているところです。その情報が出たら避難をしていただくわけなんですけど、一人では避難困難な方がいらっしゃるから、そういった方のために、今、個別避難計画、その人の事情に応じた個別避難計画をつくり、逃げ遅れのない状態をつくっているところでございます。

そして、ハード対策も必要だというふうに思います。これまでも大きな被害を受けてきた場所において、防潮堤の増設または河川の浚渫救済、急傾斜地対策などに加えて、地震に関しては、やはり建物の耐震化、それから上水道や下水道といったインフラの耐震化も現在進めているところでございます。

そして、避難所にも避難をせざるを得なくなったときに、どういった避難環境を整えるか。これはやはり飲水の確保が大切ですので、耐震性貯水槽であるとか、応急給水庫、それぞれ20カ所、40カ所を整備いたしました。災害備蓄の充実も大切な問題です。特に長期避難所における生活が長期化した場合には、トイレをどうするか。これまでは携帯トイレ、仮設トイレのみの配備でございましたが、たくさんの方がご利用いただけるマンホールトイレを昨年から整備し、今年、去年は2つの小学校に合計22台、今年、5つの小学校に51台配備する予定でございます。これに加えて、先ほど下水道の耐震化のお話をしました。実は、この間、医療関係者とお話をしていたときに、災害時の医療の連携をもっとしっかりしなければいけないというお話がありました。小田原市においては、小学校に仮設救護所を医師会等の医療機関との連携でということになっております。さらに、小田原市立病院は、災害時の拠点病院となっています。一方で、この医療の連携を災害時につかきどるのは、小田原保健福祉事務所の機能、役割となっておりますが、ここの情報伝達を市民の方に、より早く伝えていくということも、この被害を軽減していく。さらに二次災害関連死というものを防止

する取り組みも進めてまいります。以上です。

■植松コーディネーター

ありがとうございました。それでは、加藤さんお願いいたします。

■加藤立候補予定者

1月1日の地震は本当に過酷な状況になっていて、いまだに本当に多くの方が苦勞されていると思います。心からお悔やみを申し上げたいと思います。

御承知のとおり、小田原はあらゆる災害が全て起こり得るといふ、そういう地形的な特色といふか、そういう状況になっていますよね。大地震津波、風水害、そして火山噴火だと考えたくないですけども、原発の事故、こういったものも含めて、それぞれの災害に対する想定をしておかなければなりません。私も冒頭申し上げましたが、阪神の時には20日間ほど中越、東日本、熊本、いずれの災害の現場には足を運んで、熊本の時には職員も帯同して一緒に行きましたけれども、調査をしております。とにかく大地震については、起きた後の対応をいかに軽減するかということに尽きるわけございまして、とにかく死なないということは当たり前なんです、人命救助、救助活動、避難所のあり方、そういったことをまだまだやれていることがたくさんあります。

具体的なテーマはたくさん残っていますので、これを潰していくということになると思います。あと、やはり心配されるのは津波です。県が最大規模の津波想定を出しておりますけれども、3年に一度の津波によって数分の内に最大で10メートルの津波がやってくるという想定になっています。これについては、東日本大震災の後に津波避難計画、市民の皆さんと一緒に作り出しましたが、それでも間に合わないぐらいの状況になっていますので、これをもう一度更新をして、より確実なものを作っていく必要があると思います。あと、どうしても、孤立の考えられるこの小田原を含めて、足柄平野の地形です。河川、山に囲まれ、橋が落ちれば途絶をする。あるいは片浦のようにそもそも道路が下がってしまうと物が行き届かなくなってしまう。そういう場所もいくつもあります。こういうことを具体的に考えていって、さまざまな対応をしていきます。また、今まで私がかかっていた地域防災計画の中で弱いと思われるのは火山噴火ですね。火山噴火に対しては一般論的な対応の技術はありますけれども、例えば降灰があったときにどうするか。そもそも通信施設が非常に障害を受けるということがわかっていますので、それに対する対応をどうするか。これは市の情報の安全管理にもかかわる話にもなります。これも考えたくないですが、原発事故、小田原市は18万人いますので、この全員が避難することは不可能です。ただ一方で、浜岡原発のリスクというのは当然0になっているわけではございませんので、これが起きたときにどういった避難をするのか、集団移転ができないときにどこにみんなが避難するのか、これも今、地域防災計画にはほとんど書かれていないと思います。これも具体的に考えていって準備をしていく、こういうこともやっていかなければならないと思っています。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございました。それでは、2問目を伺いたいと思います。少子化問題はとても重要な課題と考えますが、子育て世代が小田原市を選んでくれる魅力的な政策や、子どもたちの教育に対するお考えを伺わせてください。

今度は順番が変わりまして、加藤さん、守屋さんの順番でお話しいただきたいと思います。それでは、加藤さんからお願いいたします。

■加藤立候補予定者

もちろん極めて重要なテーマです。これについてもさまざまな観点の言い方ができるんですけども、私は学力だけではなくて、人間の力を育てていくという観点に照らしてお話をしていきたいと思います。

やはりこれからの時代、人口が減ってより少なくなっていく若い子たちがより大変になっていく社会を支えていくわけですから、人間の力を育てていかないといけません。そういった成育あるいは教育のできる環境を、学校だけではなくて、地域全体としてそれをつくっていくということが極めて重要だと思っています。

これは私の書いた政策集から三つほど抜粋して紹介したいと思います。一つ、主権者教育の充実です。今、日本の子供たちはどうしても偏差値至上の教育の中に気がつけば乗っかってしまって、受験競争を経て、気がつけば高校を卒業して大学を出るんですけども、そのときに政治に対する意見、投票率、本当に低いですよ。

18歳から主権者ですけども、投票に行かなくなってしまうということで、政治に対して非常に無力感を感じてしまっている。こういう子たちを育てるんじゃなくて、もう最初からちゃんと自分の考えを持って、自分の意見を言って、地域の課題をわかって、自分がどう生きるかということを選択していくような子どもたちに育ててほしい。

そういう主権者教育を小学校のときからやるべきだと思っています。具体的には、例えば小学生では小学生議会を開いてもらって、ここにちゃんと予算をつけて、この予算を、例えば100万円をどう使うかということをみんなで議論するような、そういうリアルな教育をしていくべきだと思っています。

二つ目、地域の中で、地域の人たちとともに地域の課題や可能性を学んでいくというような地域密着型の総合教育、こういったものを学校の中でも展開していきたいと思っています。渋谷区がやりましたよね。学校の授業を半日だけにして、午後は地域に出て行って、地域の課題の中で学んでいくという取り組みをやりました。

すごく大胆なことだと思いますが、こういったことをやってでも、子どもたち、小学生も中学生も地域の課題を知って、地域のことを学び、未来に向けて自分がやるべきことを考える。一方で、地域の人と交わる中で、地域に対するふるさとへの愛情を育てていく。

こういったことが、いずれは小田原から一回学びに外に出ていっても、いずれは帰ってきて

小田原のために働こうと思う人間を育てる。そういう意味ではとても大事になってくると思います。あと、これはちょっと具体的なことですけれども、エディブルスクールヤードというのを考えたいと思います。

これは食農教育です。今、学校にももちろん学校菜園がありますが、とても小さいものですよ。そうではなくて、200ヘクタールぐらいある耕作放棄地を使って、学校ごとに大きな農園をつくっていく、そこを子供たちと地域の大人たちと地域の農業経験者が一緒になって開いて行って、そこで四季を通じて食べ物をつくっていく。

その過程で、命を支える食の大切さ、みんなでものをつくる喜び、人々と手を支えて開拓する楽しみ、こういったものを学んで大人になっていく。こんな地域の姿を私はつくっていきたいと思うんですよね。そういった中で、学力だけではない、人としての力を育て、この地域を支えていくような、そんな人材を育てていく地域として取り組んでいきたいなというふうに思います。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございます。続いて、守屋さんをお願いいたします。

■守屋立候補予定者

少子化対策という重要なテーマです。よく言われることですが、産む産まないはそれぞれの御希望によるんですが、理想の子どもの数を持たない理由を尋ねたときに、その上位に来るのが、子育てや教育にお金がかかりすぎるからというアンケート結果があります。

こういったことに対しては、やはり負担感を減らしていくということ。これはもちろん小田原市だけでできることではありませんが、これまで本市では小児医療費の助成は、今年のおおごころには18歳まで所得制限なしで引き上げるであるとか、初回の産科の受診料を助成するであるとか、もしくはお子様を保育園に預けた際に紙おむつの回収を行政が負担するとか、さまざまな産後ケアの取り組みなども行ってきました。

これはある意味、直接的な保育保護者への支援だというふうに思います。そして、そこにやはり教育移住ということが最近ございますが、その教育環境が自分の好みの好みと嗜好に合った教育環境を目指して人々が移住するという時代においては、これは小田原市において大変重要な取り組み、なので今、新しい学校づくりの基本方針ということを取りまとめたところでございます、この中には、地域と学校との関係であるとか、ICT教育の推進とか、インクルーシブ教育とか、さまざまなものが盛り込まれておりますが、とりわけ小田原市内の学校においても、クラス編成において非常に苦労している、もっと別の言い方をすれば、児童生徒数に相当なばらつきがあるということをどういうふうに、これも先の将来を予見しながら学校を作っていくかということは非常に重要ですし、その学校環境を支えてくださっている教職員の方々の負担を軽減していくということも大きなテーマだというふうに

思います。

そして、教育環境の充実においては、ステップアップ調査、子どもの伸びに着目した調査というものをこれまで定期的実施してきた。さらに、それをこれから本格的に実施していくという状況になっております。また、小田原市には公立の認定こども園というものがこれまで存在しておりませんでした。

地域においてそういったものを受けまして、今現在、認定こども園の整備をしているところでございます。まだまだ取り組む事業はたくさんあるわけでございますが、この子どもを産み育てる、そして切れ目のない支援を行ってくれるのは色々な自治体がある中で小田原市なんだということ、それが先ほどお話ししたような教育移住につながっていく。若い方の移住者が増えれば、結果的に少子化対策にもつながっていくものと期待しているところでございます。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございます。では、三問目ということで、これは市民の方からの質問の最後の問題でございます。私、この問題意外に好きなんですよね。単純です。単純にストレートな御意見です。小田原市をどのように発展させたいですか。この一言です。

ということで、小田原市をどのような都市に発展させたいですかということ具体的なビジョンと実現に向けた具体的な政策をお伺いしたいと思います。順番は守屋さん、加藤さんの順番でお話しいただきたいと思います。それでは守屋さんお願いいたします。

■守屋立候補予定者

具体的なビジョン、それはまさしく世界が憧れるまち小田原をつくるという一言に言い表せると思います。昨年の11月に日本都市学会というものが小田原で開催されました。そこでいろんな都市のビジョン、学者の先生たちが集まったんですが、この小田原の世界が憧れるまちというのは非常にあまり他にはないクリアな目標ですね、という言葉いただきました。

でも、これをどうやって本当の皆さんに住んでいる人に住み続けたい、またそうでない人にとっても行ってみたいという風にわくわくしたまちをつくっていくか。それはやはり若者とか女性とか、一人ひとりが輝く社会、いろいろな意見が政策に提案できる社会、そして自分がそれをやろうと思ったときに、それを実現できる環境が整っている社会、そしてそれを支えるための公共と民間との連携がとれている社会ということに言い表せるかというふうに思います。

そして、それを作っていく上で不可欠な要素が地域共生社会だというふうに思います。障害のあるなしにかかわらず、国籍や性別に関係なくその人らしく生きていく。そして、私は前例がないことに挑戦するという言葉は大変大好きです。いつも使っています。

でも、前例がないことに挑戦していくということは、実はそれが成功につながるとは限りま

せん。失敗するリスクももちろんあります。だとしても、それを何度でも何度でも挑戦できるような、ある意味セーフティーネットがしっかりしている、そしてやり直す、そして立ち上がることを支えてくれる環境が整っているまちであるべきだというふうに思っています。小田原は大変この自然環境が恵まれた土地において、これからさらに私はどうしてもいろいろな集中投資が小田原駅に集中しがちだ、そういう傾向がある中で、私は御殿場線沿線というものの魅力をさらに引き上げていくことが、わくわくするまち、世界が憧れるまちにつながってくるんだと思います。

そのためには、都市計画法や農地法といったもの、さまざまな制約があります。そして、先ほどらい出ている人口減少の問題、さらにはなかなか日本の農業を果たして、特に小田原、神奈川のような都市近郊の農業をどうしていくかという課題、これをパッケージで解決するエリアというものを私は考えております。

こういったものがわくわくする、小田原だったらそういうことができるんだ、今までの小田原のイメージにさらにプラスしていくまち。私は素敵なおもてなしがあるまちにはすてきな人がいると思います。ある方にこういうふうに言われました。私は都内に就職するつもりでいました。

でも、いろいろ小田原の中でいろんな人と出会った結果、小田原にもこんな素晴らしい人たちがいるんだ、こんなおもしろい環境があるんだ。だから私は都内での就職をやめて、今、小田原で仕事をしている。そんな言葉がありました。そんな方を一人でも増やしていきたいと思えます。以上です。

■植松コーディネーター

はい、ありがとうございます。あんまり個人的な意見を言うてはいけませんが、私です、静岡側の御殿場線沿線に住んでおまして、御殿場線のことについていろいろありがとうございました。続いて、加藤さん、お願いいたします。

■加藤立候補予定者

とても大事なテーマですが、なかなか大きな話になってしまうとなかなか具体的に入りにくいんですけど、お話をしたいと思えます。この発展の意味合いがとても僕は大事だというふうに思っています。小田原が持っている可能性が存分に発揮をされて形になっていく。これは量的に拡大するというだけでは質的に発展する、あるいは質的に進化をする、それは進むという意味と深まるという、両方あると思えます。

このように内在している可能性が形になっていく。そしてそれがなおかつ価値が深まって高まっていくような、そういうものを目指す。それは別の言い方をすると、人にとっての幸せとか、人にとって豊かさというものがこのまちに来ると十分に感じられるような、そういうまちとして磨いていく、育てていくということだと思っています。

私が掲げる都市像というのはこういうことです。誰もが笑顔で暮らせる愛すべきふるさと小田原、これは具体的にいうと、命を守り育てる地域自給圏というものです。自給という言

葉を使うと、恐らく皆さん方は食べ物の自給とかイメージの集約してしまうかもしれませんが、これは違いますね。いろいろな意味で、この地域で生きるために必要なものを地域の中でまかなっていく。それで安心して暮らし続けることができる、地域の形を整えていく、こういうことになります。これはもちろん食べ物、エネルギー、そして支え合うケア、教育、そしてものづくりの技術、そして地域コミュニティー、こういったものを一通りそろえていく。

それって当たり前じゃんと思うかもしれませんが、これを一通り一定のレベルで安心して暮らせるまちを整えることというのは、実はなかなか難しいです。あるものが突出してあっても、あるものがなければ人が暮らしていく地域としては不完全なものになってしまう。私はそういう地域自給圏というものを作っていく。それを小田原だけではなくて、足柄平野全体と連携しながら作っていくということがこれから先の時代に対して大きく提言できる小田原を求めて足柄地域のすごいポテンシャルだと思います。一つ具体的な話をします。エネルギー、再生可能エネルギーのさらなる発展というとても大事なテーマですが、それをやるためにドイツで私も実際見てきましたが、シュタットベルケ地域公社というものを作っていく、今、エネルギー、再生可能エネルギーが日本中で払底していますので、やはりそれを自分たちの地域で作っていく、そこに市も資本参加をして、新しい会社としてこれまでの会社をよりブラッシュアップして作っていく。

そこで売電収益を上げていく、それを例えば地域の中でやる課題であるところの公共交通等の財源に充てていって、地域の課題解決にも充てていく。そのように、例えばエネルギーという切り口を使ってやっていきながら、地域の公共課題を解決していく。

地域全体が自給に向かっていく、安心して暮らしていける地域として生きる基盤を整えていく、こういう地域をつくっていくことが、私が目指す地域の姿ということです。以上です。

■植松コーディネーター

以上です。ありがとうございます。やっぱり今、加藤さんがお話しになっていましたけど、やはり笑顔って重要ですね。

やっぱり笑顔になれるようなまちづくりをしていただきたいというふうに思います。すみません、普段個人的な意見は言わないようにしているんですけども、この質問がですね、私は本当にすごくシンプルで素敵な質問だったので、小田原市民の皆様こういう問題を提出していただいたということは感謝申し上げます。ということで、市民の皆様からの質疑応答を終了させていただきます。

皆様、大きな拍手をお願いいたします。いよいよこれで最後という形になります。最後のメッセージという形になります。それぞれお二人が終わった後に、最初の自己紹介と同じように、お二人にそれぞれ大きな拍手をしていただきたいというふうに存じます。順番が今度は加藤さん、守屋さんの順番でお話しいただきたいと思います。

それでは、加藤さんから準備ができましたら、よろしくようお願い申し上げます。

■加藤立候補予定者

2020年に市長退任をいたしました。そして、この4年間、一旦はその立場を離れていろいろな取り組みをやってまいりました。2020年のときも、実は今回と同じように持続可能な地域の社会をつくるというテーマを全面的に掲げていたんですが、残念ながら、日本で初めて遭遇する新型のウイルスの感染の第一波のピークところにぶつかりまして、市民の皆さんの関心の多くは、この感染に対し医療対策をどうするのか、また現金の給付をどうするのか、こういったことになってしまって、この持続可能な社会を提案する私の提案というのは、ほとんど選挙の争点にならなかったという、そういう残念な思いがあります。今回、そこからまた4年が経て、もう一回私は立ち上がると決意したわけですが、その大きな背景には、何ととっても時代の社会に対する危機意識がとても強まっているということです。これは人口減少もありますし、生産性の減少もありますし、さまざまな社会基盤の老朽化もいろいろな課題があります。こういった難しい課題が一遍にやってくるという難しい現実。私は、今のこの社会の中で政治に携わる立場の人間は、こういった難しい課題、ある意味不都合な現実をきちんと市民の皆さんに伝えて示して、そこにどうやって立ち向かっていくのかということ正直に話をし、ともに苦労はかけるけれども、一緒に歩いていこうよということを書いていく、そういうふうな責任を果たすことが、この時代の地方都市のリーダーであるべきだと思っています。残念ながら、国政が今ご承知のとおり大変残念な状況になっている。自分の利益や利権や保身、こういったことに終始して、全く真つ当な政策の議論ができなくなっている。

そのことを国民は見ていて、政治に対する諦めが蔓延している。こういう中で誰がこの難しい状況を突破できるのか。これは私はやはり地方都市で首長がリーダーシップを発揮して、自分たちの財源を持って、そして多くの市民の皆さんと一緒に動ける、そういう立場の地方自治体の首長がまさにこの取り組みをしていくべきだと私は思っています。

そういう意味で、今回改めてマニフェスト、政策提言書をつくりまして、皆さん方に持続可能な未来に向かった道筋を示させていただきます。ぜひ皆さん方一緒にその選択を選びとって、これから先、誠実に、そしてお互いに信頼をしながら、希望に向かって歩んでまいりたい。信頼というときに、市長と職員の信頼、市民と市長の信頼、あるいは市民と市民の信頼、いろいろな関係の信頼というものがありますが、こういった信頼を取り戻していく苦労はしますけれども、その先に必ず希望が見えるというものをともに抱いて歩んでまいりたい、そういった取り組みに全力を買って皆さん方に問うてまいりたいと思いますので、ぜひとも御意見を賜りますようお願いいたします。今日はありがとうございました。

■植松コーディネーター

皆様、大きな拍手をお願いいたします。

加藤さん、ありがとうございました。それでは、続いて守屋さん、お願いいたします。

■守屋立候補予定者

ファイナルプレゼンテーションということでしょうか、私、冒頭の話でもしましたけれども、県庁職員 18 年やって、県会議員 8 年やって、この小田原の可能性まだまだある。でも、それが十分に発揮されていないのではないのか。そんなことから、小田原市長に 4 年前に就任させていただきました。もちろん、コロナで思ったようなスタートが切れなかったわけですが、将来、都市像を世界が憧れるまちということを掲げて今日まで出てきました。今、持続可能なのことを加藤さんのお言葉からありました。まさにそれは今の大きなテーマです。特に小田原は地域コミュニティが大変盛んです。一方で、昨年、私もいろいろな現場を訪れるたびに、このままではあと 10 年先、こういったコミュニティは維持できない。担い手がないんだ、本当に悲鳴のような声が聞こえてきました。現実には子供会や老人会といったものは、どんどんどんどん減少の一途をたどっています。

だからこそ、今こそ持続可能な地域運営は何なのかということをつくり直していく最後のチャンスなのではないかというふうに思っています。そして、行政側がそこにどうコミットしていくのか。この地域の中で、例えば今日も、ある地域自治会から推薦された方の委嘱をさせていただきました。こういった方の方に支えていただいているのは間違いないんですが、そこはもう少し勇気を持って行政側も他のセクターとの連携をしっかりとっていくということを、場合によってはそれを縮小していくということを勇気を持ってやるということが、実は持続可能な地域運営につながっていくのではないのかなというふうに思っています。

明日どうなるのかではなくて、明日はきっと今日よりもいいことがある、明後日はもっといいことが、私たちはそれを自分の力で成し遂げていく、そういった地域である夢や希望を持って進んでいける。それが世界が憧れるまち小田原につながっていくものと今改めて感じているところでございます。今日は小田原青年会議所の皆様にこういった機会を持っていただいたことを本当に心からうれしく思います。一つ懸念があるのは、やはり投票率の問題ですね。なかなか投票率が上がらないということが、投票に行かなくても世の中は変わらないと思っていらっしゃるのかどうかはわかりませんが、現実的に投票率がもう半分以上の方が棄権されていく。

それは当事者の一人として、私たちはもっともっと情報を発信して、関心を持っていただいて、自らの意思が自らの未来をつくるんだということをやはり訴えていく必要があるというふうに思っています。そして、皆様方に自分の目で真実を見つめ直して、そして自分の目で判断をして、そして未来の選択をしていただければなというふうに思います。

今日は小田原青年会議所の皆様に大変お世話になりました。このことが投票率の向上につながることを心から期待をしております。ありがとうございました。